

## マイプロジェクト テーマ一覧

- No. 1. 石塚 翼 「災害を学んで今後の人生に生かしたい」
- No. 2. 伊藤 輝海 「古田歌舞伎のパンフレット作成」
- No. 3. 伊藤 颯斗 「ダンスイベントを開催したい」
- No. 4. 伊藤 玲奈 「DIY をして新しい発見！~JK の特権~」
- No. 5. 大石 蓮 「“安らぎの場” を求めて」
- No. 6. 後藤 李玖斗 「食に触れて魅力を知ってもらう in 飯豊・小国」
- No. 7. 金 悠翔 「ボランティア参加者を増やす」
- No. 8. 今野 優希 「町資源の REBORN 大計画」
- No. 9. 齋藤 愛花 「私の軌跡 ~何もない町で1日限定高校生カフェを開くまでの道のり~」
- No. 10. 斎藤 優輝 「道の駅で昆虫展覧会」
- No. 11. 佐藤 元輝 「芸術であふれた町に」
- No. 12. 佐藤 優 「アニメの魅力を効果的に伝えるには」
- No. 13. 佐野 天飛 「野良猫カフェを作りたい」
- No. 14. 鈴木 蒼生 「スケートボードのセクションを作る」
- No. 15. 代場 亜美 「オリジナル物語と夢~心に届く一冊を~」
- No. 16. 高橋 亜佑那 「声に出したら叶っちゃった ~1日限定カフェを開いてみて~」
- No. 17. 田中 陸翔 「新サッカースタジアム構想」
- No. 18. 戸田 愛翔 「多くの人に視聴されるゲーム実況動画を作るには」
- No. 19. 保科 奈緒 「無くなってしまったイベントを復活させる」
- No. 20. 前田 大翔 「英語の小国高校パンフレット作成」
- No. 21. 和田 一誠 「ダンスイベントを開催したい」

令和3年2月1日白い森未来探究学「2学年 地域実践学」成果発表会  
オープニングセッション生徒代表挨拶より抜粋

皆さんこんにちは！山形県立小国高等学校 白い森未来探究学「2学年 地域実践学」成果発表会を始めます。

発表の前に、私たちがどのような学びを積み重ねてきたのか、簡単に説明させてください。

## 白い森未来探究学（もりたん）

### 1学年 地域文化学

地域の格好良い大人に出会う  
自己の興味関心を高める



### 2学年 地域実践学

一人一人が課題を設定  
地域に出てマイプロジェクト実施



### 3学年 地域構想学

今までの実践から新たな提案  
自分の将来とつなげる



本校の「総合的な探究の時間」は「白い森未来探究学」といい、私たちが入学した年からスタートしました。1学年「地域文化学」では、コミュニケーション研修やプレゼンテーション研修など探究活動に必要な力を身につけ、また、地域の魅力的な大人から学ぶ講座を自分で選択し、ゆったりと地域にひたり、大人との対話や体験活動から自分の興味関心に気づくことができる、楽しくぜいたくな時間を過ごしました。

2学年「地域実践学」では、1学年で気づいた自分の「好き」を大切にして、一人一人が探究テーマを設定し、活動してきました。好きなことをやっていいと言われても、答えのないものに向かうのは難しかったのですが、トークフォークダンスやインタビューなど地域の大人と対話する機会から、アイデアやイメージを具体化させるきっかけをいただき、学び進めることができました。

今日は私たちが学んできた成果を発表します。私たちが感じた思いを、私たちの言葉で精一杯伝えたいと思いますので、最後までお付き合いください。



# 災害を学んで今後の人生に生かしたい

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

小国町で昔発生した災害（羽越水害）について調べていた頃、熊本県で豪雨災害が起きた。その影響で、今後の人生でまた災害が発生した時に対応できるようにしたいと思った。

小国町羽越水害  
の記録誌  
「おおみず」



## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・羽越水害を経験した方にインタビューを行った。水害が起きた年は、町外で働いている人は山を超えて町内に戻ってきていたと聞いて驚いた。当時の小国高校生がボランティア活動を行っていて、地域に貢献していた。
- ・羽越水害の記録「おおみず」を読んで、実際に被害にあった場所に足を運んだ。そこには記念碑が建っていて、自分が生まれる前に大きな災害があったことを実感した。
- ・今年度被災した熊本県小国高校にアンケート調査を行った。結果を見て、自分が住んでいるところで災害が発生した時、しっかり行動できるように心がけたいと思った。

## 【実施写真】

当時の小国高校生ボランティア活動



被災地の記念碑





# 古田歌舞伎のパンフレット作成

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・小国町の文化を外に発信したかったから。たくさんの文化があって紹介しきれないと思ってテーマを絞った。
- ・平成2年から古田歌舞伎のパンフレットが更新されていなかったから。
- ・小学校3・4年生の頃に沖小歌舞伎を体験していたから。

小学校の思い出  
沖小歌舞伎



## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・町内の人でも古田歌舞伎を知らない人が多いことを知り、町外よりも先に町内向けに発信することを決めた。
- ・テーマを変えようかと悩んだこともあったが、今までの経験が無駄にしたいくないと思い、最後までやりきることを決めた。昔からある古田歌舞伎の文化をみんなに知ってもらいたい気持ちを再確認できた。
- ・大道具や着物に興味があり、値段を調べると高価でびっくりした。
- ・パンフには昔からある文化・歴史はそのまま残し、会長さんの挨拶、練習風景動画のQRコードなどを盛り込む。

## 【実施写真】

古田歌舞伎資料館を見学



古田歌舞伎経験者にインタビュー



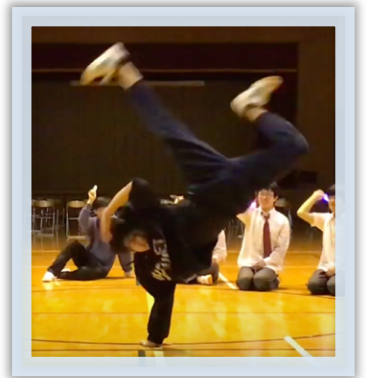


# ダンスイベントを開催したい

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・一誠 (No.21)・颯斗ともにダンスが好きだったため共同で探究。
- ・ダンスの楽しさを広めたいが機会がない→作ればいい。

自分が好きなものを  
楽しんでもらう



## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・イベントの参加を募る時は、相手に「自分にもできるかも」と思わせるような伝え方をすることが大事。
- ・1回目のアンケートでは、何曲もある選択肢の中からランダムで音楽を流し、踊れると思う人がパフォーマンスを披露するダンスバトルイベント企画の参加希望者を募った。結果は、ダンスバトルという名前のハードルの高さが要因で、踊りたい人がいなかった。
- ・どうすれば興味を持ってもらえるか、参加しやすくなるか考えたところ、小国高校にはヲタ芸パフォーマーがたくさんいることを思い出した。ヲタ芸 (サイリウムダンス) メンバーに参加してもらうことでハードルが下がり、2回目の参加希望者アンケートでは踊りたい人が12人まで増えた。
- ・学園祭の前日と当日にイベントを開催。ダンスの楽しみ方はたくさんあり、ヲタ芸・音ハメ・歌詞ハメ・オリジナル・即興など様々なジャンルが参加。みんなが楽しめる空間を作り出すことができた。
- ・自分が好きなものを楽しんでもらうために、本当に大切なことは難しく考えさせないこと。伝え方を工夫すると、のり気では無かった人もものってきてくれる (例えば、バトルという言葉イベントという言葉に変更する)。
- ・この経験を生かして伝え方を工夫し、色々な人たちにダンスの楽しさを広めていけると思った。

## 【実施写真】





# DIY をして新しい発見！

## ~JK の特権~

### 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

先生が「DIY って面白そうだね」  
って言ったのを聞いて  
「そういえば学校きたなくね」って思い  
「きれいにしたいな」と思った。

みんなが使う下駄  
箱をペンキ塗り♪



### 【プロジェクトを通して学んだこと】

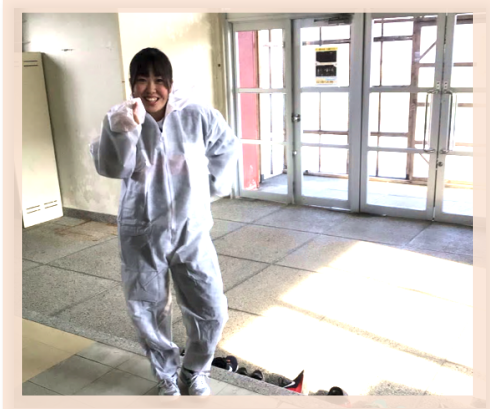
- ・DIY は楽しい。JK の願いは叶う（たくさんの地域の方が応援してくれる）。
- ・全校生徒向けに、どこをどのように直して欲しいかアンケート調査を実施。調査結果は、玄関（下駄箱の使い古した感を無くす）、外観（花を植えて欲しい）、教室（壁の色を変えて欲しい）、トイレ（扉が開けにくい、汚い）だった。実践としてパソコン室の靴脱ぎ場のじゅうたんをパズルマットに変え、生徒昇降口の下駄箱をペンキ塗りした。
- ・ペンキ塗りをしての感想は、私みたいに雑な人がすると逆に汚くなる。器用になりたい！次回は玄関の下駄箱に絵を書きたい（朝登校して1番に目に入るのが下駄箱だから）。

### 【実施写真】

Before



After





# “安らぎの場”を求めて

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

学生や町の人が通いやすい店が学校付近に欲しいと感じたから。

カフェや喫茶店の魅力（誰でも気軽に休める、美味しいものが食べられるなど）について考え、誰でも安らげる場所を町の人に提供したい。

カフェ経営者さんの  
講話会に参加



## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・空き家カフェを開業してみたいと思い中原企画設計さんにお邪魔した。しかし貸物件しかなく、貸物件は企業が使用することになり、空き家（スペース）カフェは断念することになった。
- ・講話会にてインタビューを実施。今後の活動は、実際にカフェを訪問し、お店の雰囲気やメニューの視察など計画を立て直すこと。どんな店柄にするのか、どこに建てるのか、来て欲しい人は誰なのかなど、考えなければならない課題が増えるばかり。
- ・講話会のインタビュー内容一部抜粋

Q. お店の目標・大事にしていることは？

A. お客様の居場所作り、好きな場所になってもらうこと。お店に決まりが無い＝自由に、中心核として働く。

Q. お店の失敗談は？

A. 飲食店は失敗ばかり→気持ちを切り替える、リカバリーすること。次の営業に繋げていくことが一番大事！

## 【実施写真】

講話会の様子

